

# 平成17年度建設副産物実態調査 結果

## (1) 建設副産物のリサイクル状況

平成17年度の各県における建設副産物のリサイクル状況

(単位:%)

	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	東北	全国
アスファルト・ コンクリート塊	96.8 (99.5)	99.3 (98.7)	99.3 (99.5)	93.0 (97.7)	98.3 (97.4)	99.6 (99.7)	97.8 (98.9)	98.6 (98.7)
コンクリート塊	97.3 (94.6)	98.9 (88.3)	99.3 (97.7)	96.0 (97.2)	98.7 (98.0)	99.6 (98.9)	98.4 (95.9)	98.1 (97.5)
建設発生木材 (縮減除く)	59.2 (52.1)	68.2 (26.4)	65.7 (40.2)	46.4 (52.5)	43.7 (61.6)	72.0 (34.9)	59.3 (44.2)	68.2 (61.1)
建設発生木材 (縮減含む)	93.3 (90.2)	93.5 (72.7)	81.5 (84.7)	66.5 (80.9)	94.4 (86.3)	94.6 (87.8)	86.2 (83.7)	90.7 (89.3)
建設汚泥	99.5 (47.6)	52.6 (75.9)	87.9 (60.8)	66.9 (22.8)	84.8 (80.1)	77.6 (42.3)	88.2 (55.7)	74.5 (68.6)
建設混合廃棄 物排出量 (万トン)	2.2 (3.2)	2.9 (3.0)	5.2 (4.0)	3.2 (2.5)	2.9 (2.9)	5.2 (3.2)	21.5 (18.8)	292.8 (337.5)
建設廃棄物全体	95.6 (92.6)	93.3 (91.4)	94.4 (93.6)	87.4 (91.8)	94.0 (93.4)	94.6 (94.9)	93.4 (93.0)	92.2 (91.6)
利用土砂の 建設発生土利用率 (100%現場内完結工事除く)	27.8 (54.2)	40.4 (69.7)	55.6 (36.4)	45.8 (38.9)	53.6 (40.1)	34.0 (55.9)	42.6 (49.9)	62.9 (65.1)
利用土砂の 建設発生土利用率 ※4 (100%現場内完結工事含む)	57.3 (76.1)	69.5 (82.7)	76.4 (61.1)	78.6 (65.1)	73.7 (70.0)	65.3 (75.1)	70.5 (72.1)	80.1 (83.0)

注) 四捨五入の関係上、合計値とあわない場合がある。

注1: 1段目は、平成17年度の値

2段目の( )は、平成14年度の値

注2: 建設発生木材については、伐木材、除根材等を含む数値である。

### 【各建設副産物のリサイクル状況の算出方法】

・アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊：  
再資源化率 = (再使用量 + 再生利用量) / 排出量

・建設発生木材 (縮減除く)：  
再資源化率 = (再使用量 + 再生利用量 + 熱回収量) / 排出量

・建設発生木材 (縮減含む)：  
再資源化等率 = (再使用量 + 再生利用量 + 熱回収量 + 縮減量(焼却による減量化量)) / 排出量

・建設汚泥：  
再資源化等率 = (再使用量 + 再生利用量 + 縮減量(脱水等による減量化量)) / 排出量

・土砂 (現場内利用含む)：  
利用土砂の建設発生土利用率 = (土砂利用量のうち土質改良を含む建設発生土利用量) / 土砂利用量  
※土砂利用量とは、搬入土砂利用量 + 現場内利用量である。

※4については、補足事項があります(「別紙」参照)。

(2) 建設廃棄物の排出量と再資源化等量

① 建設廃棄物全体の状況

- 建設廃棄物の排出量は、約696万トン(平成7年度)、約764万トン(平成12年度)、約820万トン(平成14年度)と増加傾向にあったが、平成17年度は約685万トンに減少している。
- 再資源化等率は、53.5%(平成7年度)、85.8%(平成12年度)、93.0%(平成14年度)、93.4%(平成17年度)と上昇傾向にある。

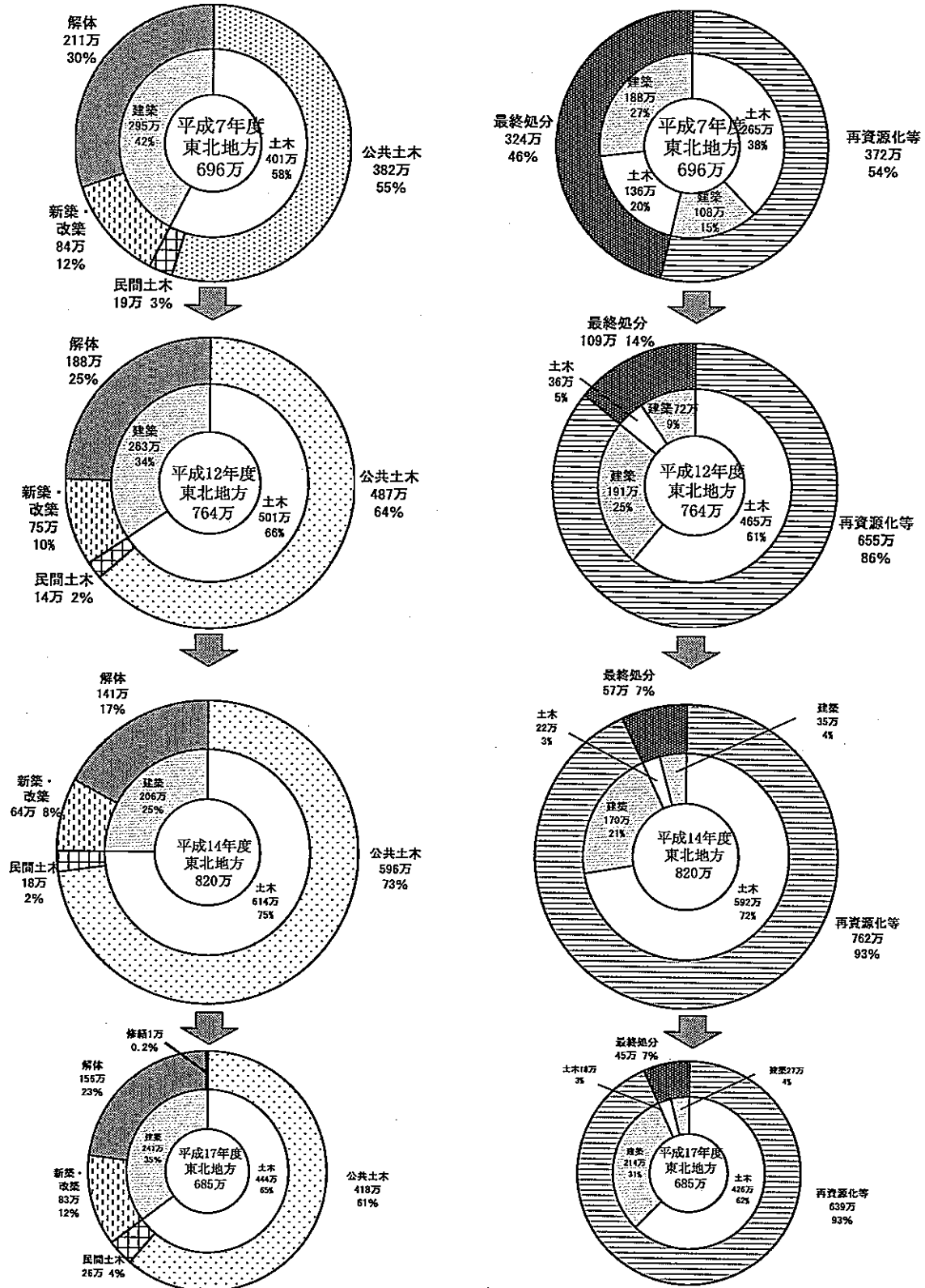


図-1 工事区別建設廃棄物の排出量(トン)  
注)四捨五入の関係上、合計値とあわない場合がある。

図-2 工事区別建設廃棄物の再資源化等量及び最終処分量(トン)  
注)四捨五入の関係上、合計値とあわない場合がある。

## ② 建設廃棄物の品目別排出量

・最終処分量は、約324万トン(平成7年度)、約109万トン(平成12年度)、約57万トン(平成14年度)、約45万トン(平成17年度)となり、減少傾向を示している。

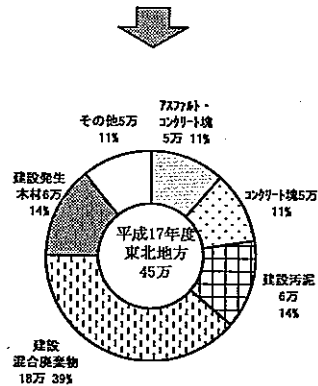
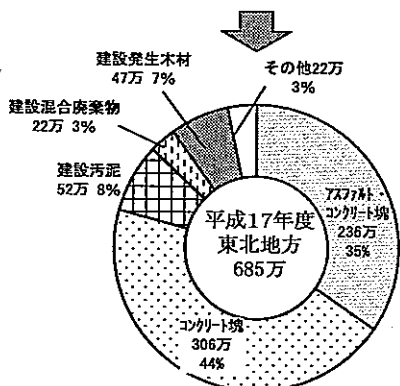
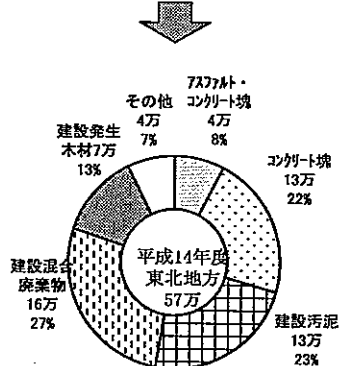
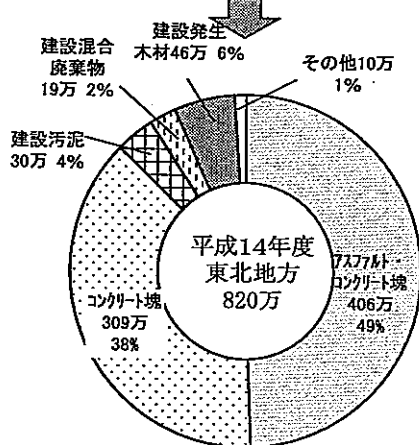
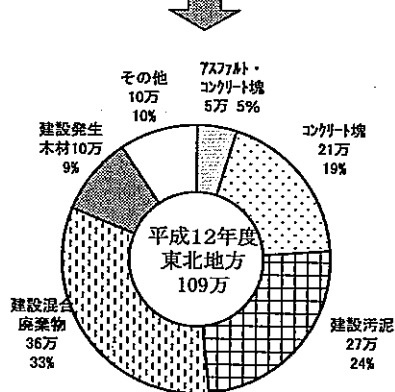
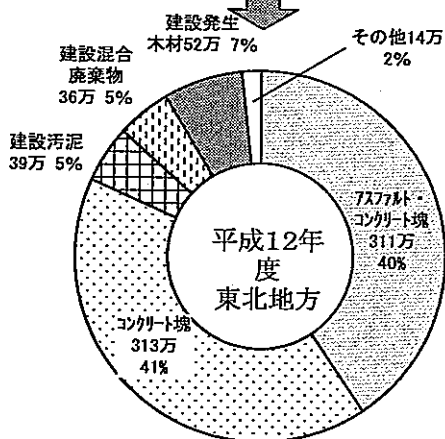
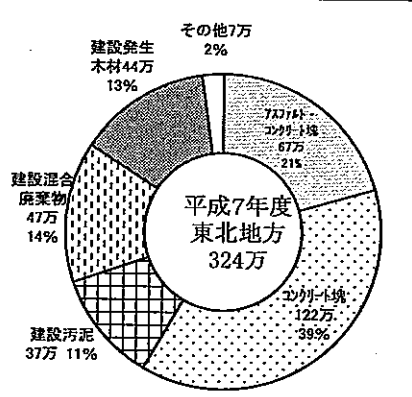
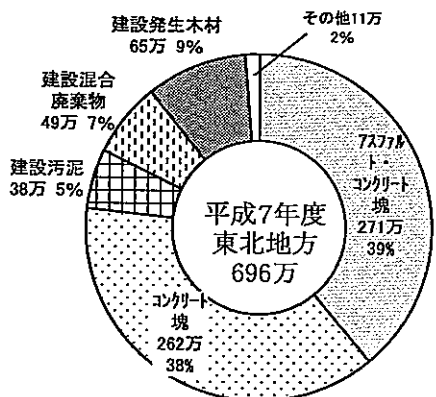


図-3 建設廃棄物品目別排出量(トン)

注) 四捨五入の関係上、合計値とあわない場合がある。

図-4 建設廃棄物品目別最終処分量(トン)

注) 四捨五入の関係上、合計値とあわない場合がある。

### ③ 建設廃棄物の品目別再資源化等の状況

- ・ アスファルト・コンクリート塊とコンクリート塊は、平成12年度以降高い再資源化率を保持している。
- ・ 建設汚泥、建設発生木材はともに、再資源化及び再資源化・縮減が進展しており、最終処分の比率が低下している。

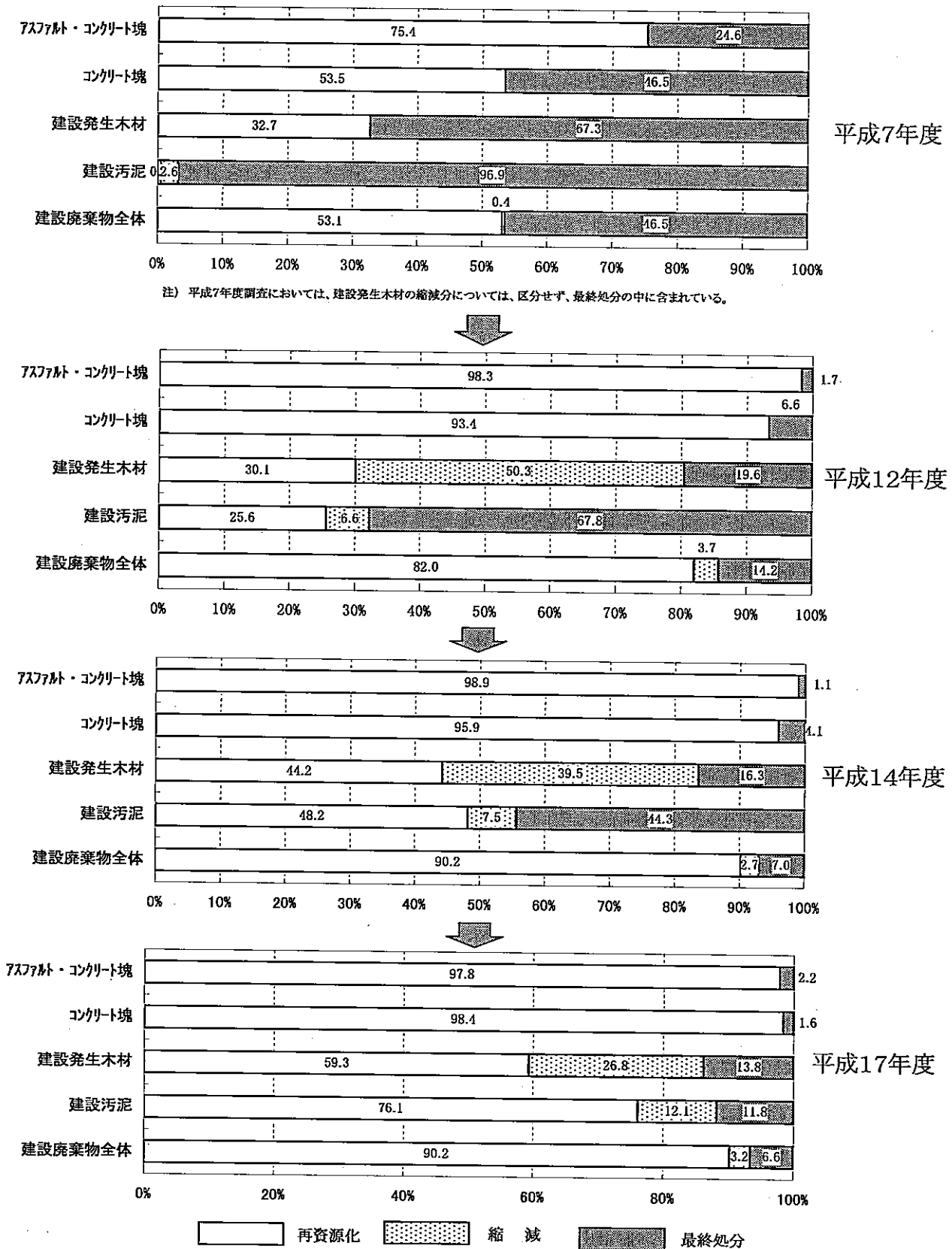


図-5 建設廃棄物の品目別再資源化等の状況

注) 四捨五入の関係上、合計値とあわない場合がある。

### (3) 建設発生土搬出量及び土砂利用

・土砂の利用量は年々減少傾向にあり、平成17年度の新材利用量は平成14年度と比較して約18%減少している。

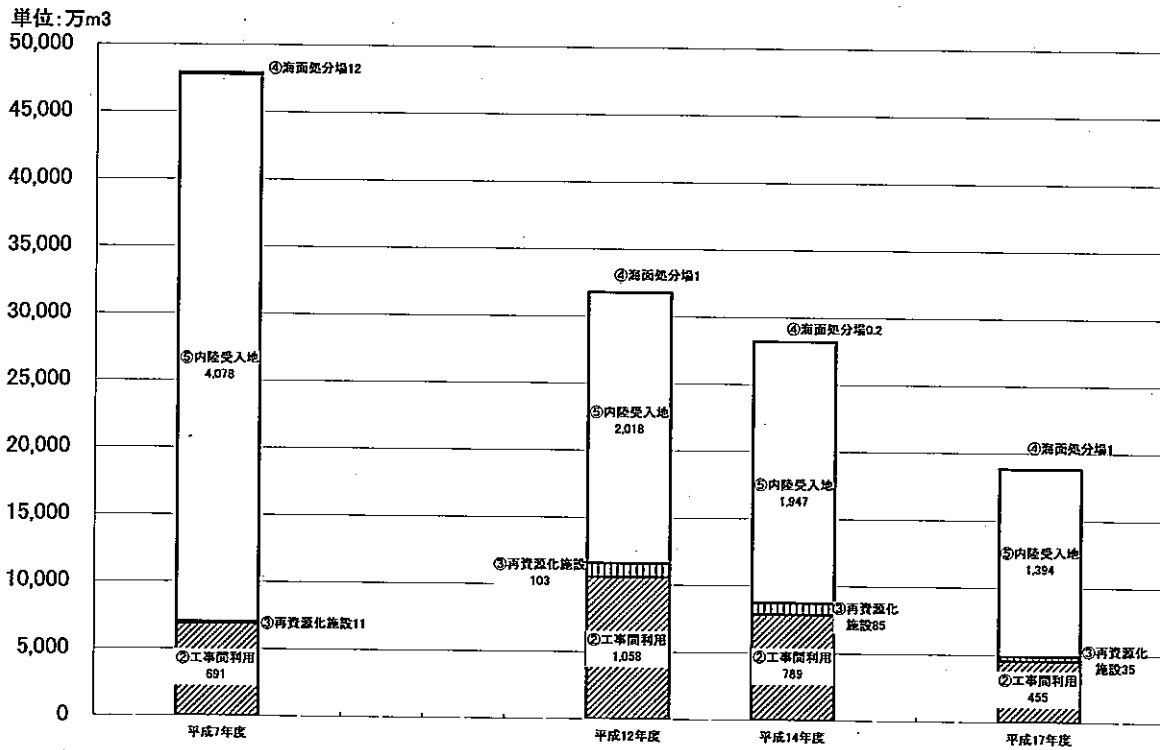


図-6 建設発生土搬出状況

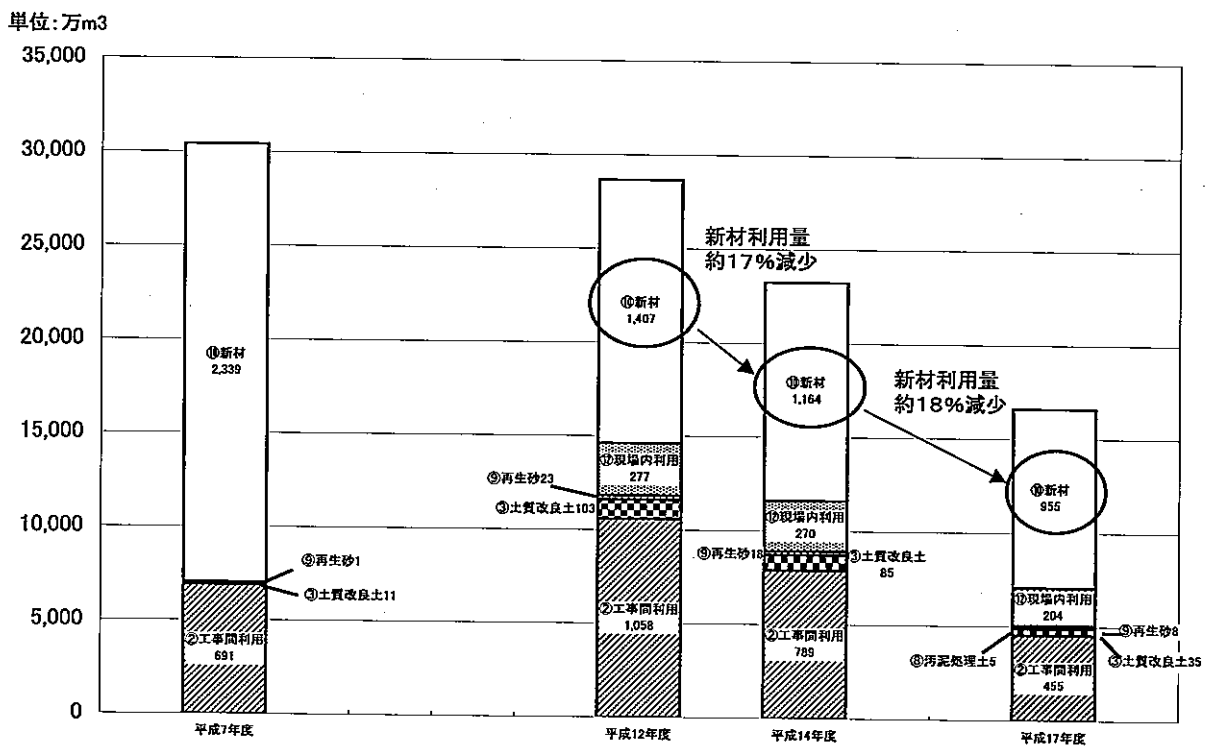


図-7 土砂搬入状況(100%現場内完結工事除く)

注)「現場内利用」は平成12年度調査より把握している。

単位:万m<sup>3</sup>

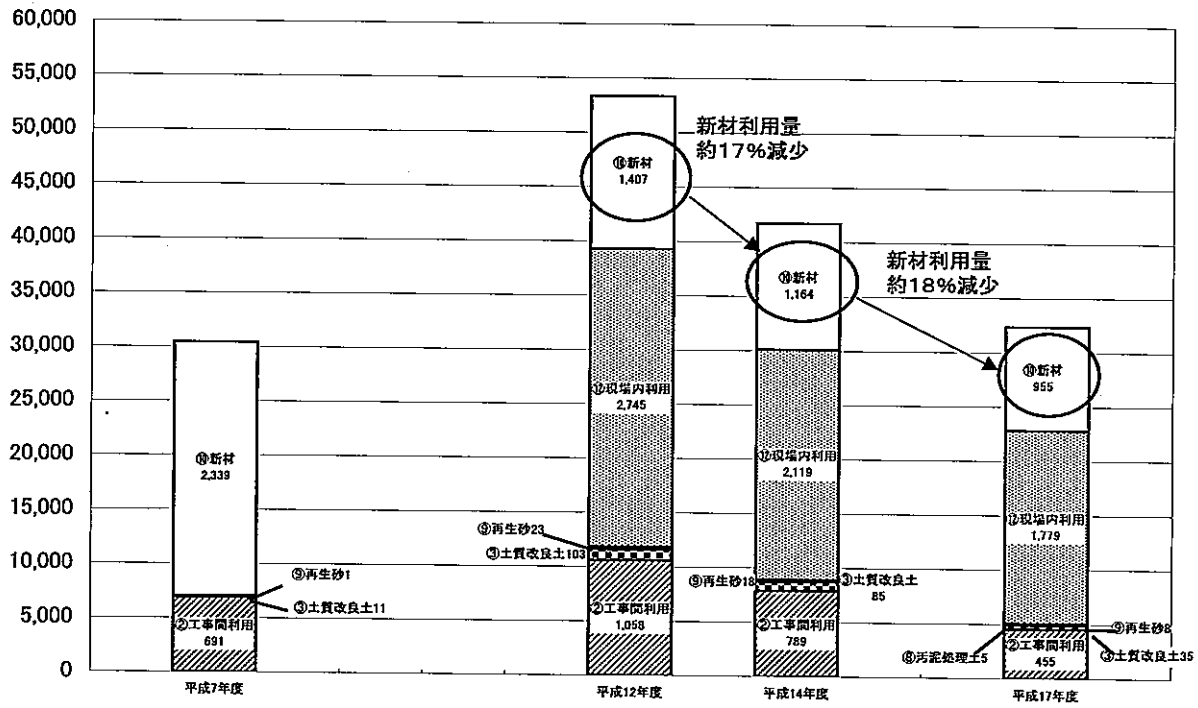


図-8 土砂搬入状況(100%現場内完結工事含む)

注)「現場内利用」は平成12年度調査より把握している。